

施設栽培ブドウ「巨峰」の芽の休眠打破、発芽促進に有効な資材の使用法

〔要約〕 ブドウ「巨峰」の芽の休眠打破、発芽促進には加温開始時のシアナミドの塗布が有効であり、7.2℃以下低温遭遇時間が200時間では2%液、400時間では0.7%液の効果が高い。また、芽傷処理との併用により発芽率がさらに高まる。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
----------------	----	----	----	-----	----	----

資料名：平成9、10年度長崎県果樹試験場業務報告

〔背景・ねらい〕

冬季、休眠状態にあるブドウの芽はある程度の低温に遭遇することで覚醒し、発芽する。施設栽培など早期に加温する場合は低温が不足し、発芽不良や不揃いを生じやすく、生産不安定の要因となっている。そこで、低温が不足している場合でも休眠を打破し、発芽を促進する薬剤を選抜した。

〔成果の内容・特徴〕

- ①自発休眠が覚醒していない 7.2℃以下の低温遭遇時間 200時間では、発芽が最も早いのはシアナミド 2%液で、無処理に比べ約15日の発芽促進効果がある（図1）。また、シアナミド 1%及び0.7%液でも発芽が早い。
- ②自発休眠がほぼ覚醒した 7.2℃以下の低温遭遇時間 400時間では、発芽が最も早いのはシアナミド0.7%液である（図2）。
- ③シアナミド処理に、芽傷処理を併用すると発芽が早く、最終発芽率も高い（図3）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①塗布の際、皮膚に付着しないように注意する。
- ②他のアルカリ性薬剤との混用はしない。

[具体的データ]

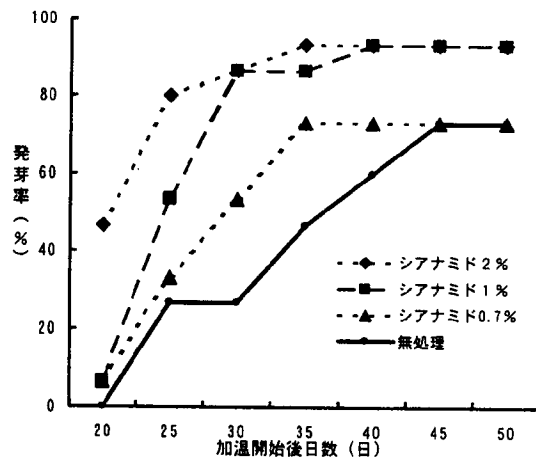


図1 ブドウ「巨峰」の発芽率に及ぼすシアナミドの効果 (7.2℃以下200時間、1997)

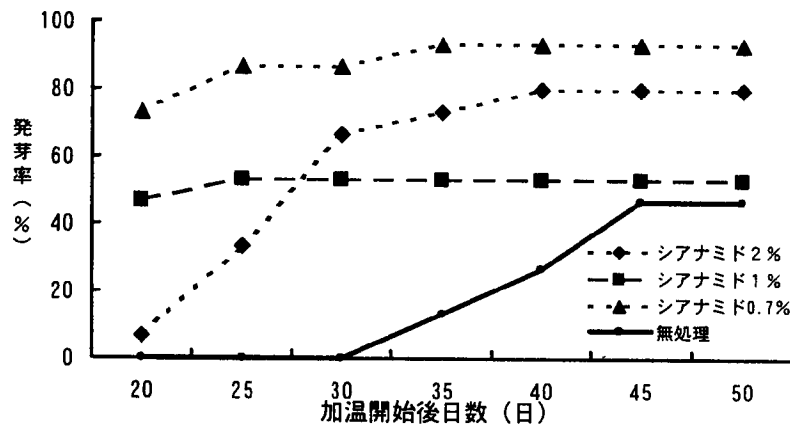


図2 ブドウ「巨峰」の発芽率に及ぼすシアナミドの効果 (7.2℃以下400時間、1997)

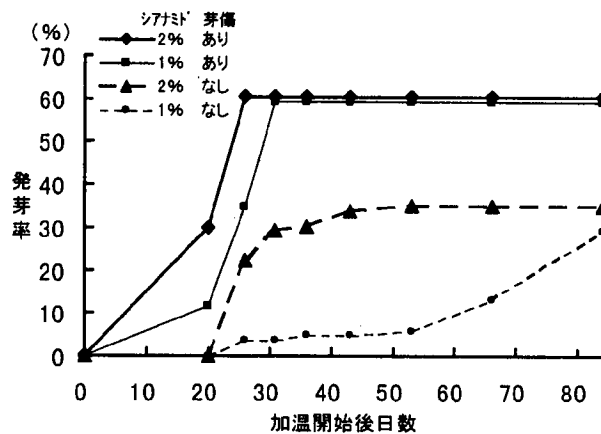


図3 シアナミド及び芽傷処理と加温後のブドウ「巨峰」の発芽率の推移 (7.2℃以下100時間、1998)

[その他]

研究課題名：施設落葉果樹の新作型・栽培法の開発
 予算区分：県単
 研究期間：平成10年度（平成9～13年）
 研究担当者：林田誠剛、森田 昭
 既発表論文等：なし